

様式2

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

学校名 沼津市立第一小学校

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

1 実践テーマ	【 Ⅲ及びⅣ 】
2 実施対象者	3・4年生児童 115名 特別支援学級児童 5名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（ 総合的な学習の時間 ） 行事名（ ） ② その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	障害者スポーツ応援隊の杉村英孝選手を招聘し、ボッチャの魅力や経験等を知るとともに、実際にボッチャを体験することを通して、スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成を目指すとともにスポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）に対する興味・関心を高める。 （次年度はボッチャのクラブ活動等における体験や、体験を元にした調べ学習等を通じ、上記目標を達成するための継続的な取り組みを実施予定）
5 取組内容	H30.10月下旬 オリ・パラ予算よりボッチャセットを5組購入 11/19（月）4年生児童のボッチャ体験 実際の体験により、児童のボッチャに対する興味関心が高まった。  11/28（水）保護者参観日における特別支援学級児童のボッチャ体験 保護者とともに体験することで、親子で楽しむことができた。 

11/29（木）保護者参観日における3年生児童のボッチャ体験
保護者とともに体験し、ボッチャに対する興味関心が高まった。



H31.2/6（水）杉村選手による講演、実技指導（3・4年生、特別支援学級児童）

児童は、杉村選手の技に驚くとともに、杉村選手を身近に感じた。パラリンピックに対する興味関心が高まった。



6 主な成果

- ・世界レベルの技を児童が間近で見ることにより、そのレベルの高さを実感できた。
- ・自分の夢を叶えるためには、努力と感謝の気持ちを忘れないことが大切であると児童が学べた。
- ・障害を持っている人でも、自分たちと何も変わらないことを講演や体験、事後の交流を通して児童が体感できた。

（以下、児童アンケートより抜粋）

- ・最初に話を聞いたときはびっくりしましたが、杉村選手がいろいろなことを話してくれているうちに親近感がわいてきました。（3年女子）
- ・世界で活躍する杉村選手と握手をすることができてうれしかったです。（3年男子）
- ・ボッチャをやったことがあるけど、私たちや先生でもまったく勝てなくて杉村選手のうまさにびっくりしました。（4年女子）
- ・杉村選手の話聞いて、失敗してもがんばり続けることが大切だということがよくわかりました。（3年男子）
- ・失敗を恐れずに挑戦するという杉村選手の言葉に感動しました（4年女子）
- ・ぼくは、杉村選手の「大きい夢でも小さい夢でもどちらでも良いから夢に向かってがんばることが大切」という言葉が心にしみました（4年男子）
- ・「体が不自由で不便と思ったことはあるけど不幸と思ったことはない」と言っていた杉村選手の前向きなところがすごいと思いました。（4年男子）
- ・パラリンピックのことをいろいろと知ることができました。テレビでやっていたら見てみたいです。（3年女子）
- ・パラリンピックを見に行きたくなりました。応援しています（4年女子）
- ・パラリンピックで金メダルをとってほしいです（特別支援学級男子）

7実践において工夫した点 (事業の特色)	・障害者スポーツ応援隊派遣事業を活用し、県東部在住のパラリンピアン杉村選手による講演、実技指導を実施した。 ・家庭への啓発をねらい、ボッチャ体験を保護者参観日に実施した。
8主な課題等	・パラリンピアンをはじめ、障害のある方を受け入れるための学校施設、設備の充実。(本校体育館は2階であり、車いすの方にとっては利用が困難であるため、会場をバリアフリーの地区センターとした。)
9来年度以降の実施予定	・来年度以降は、ボッチャクラブを設立し、常時活動として位置づける予定である。 ・今年度の3・4年生は、2020年に高学年となるため、総合的な学習の時間においてオリ・パラについて学ぶ機会を設ける。また、参観日や学習発表会などを活用し、オリ・パラ学習で学んだことを保護者や地域の方に伝える場を設定することで、オリ・パラに関する関心や共生社会の構築に向けた意識を高めたい。